



認可証を掲げ握手を交わす梅谷市長と同校の
谷本事務局長（右）

「ウィザス ナビ高校」の設置を認可

9月12日、学校設置会社による私立学校の設置について調査・審議していた養父市私立学校審議会（会長＝波多野進・京都学園大学長、6人）は、株式会社ナビ（大阪市）が旧大谷小学校跡地に設立を計画している「ウィザス ナビ高校」の設置を可とする内容を梅谷市長に答申しました。

答申前に行われた審議会では、資料に基づき同校の認可について審議するとともに現地を視察。委員からは「生徒の利益を最優先に考え、適正な運営を確保すること」といった意見が出されました。

市では審議会の答申内容を熟慮した結果、9月25日づけで同高校の設置認可証を株式会社ナビに交付しました。

同社によると、「ウィザス ナビ高校」は来年4月に開校し、収容定員は1万人。生徒はインターネットを使用して通常の授業を受け、年1回、2泊3日の日程で同校を訪れ、さまざまな体験学習を行います。



完成した公立八鹿病院（東玄関側）

八鹿病院新築工事が完成

院内に地域医療研究所も開所

平成14年から進められていた公立八鹿病院の新築工事が完成し、9月15日に竣工式典が同病院で行われました。また、鳥取大学医学部が八鹿病院内に設ける「地域医療研究所」も同日開所しました。

旧病院の老朽化に伴って整備が進められてきた新病院は、平成16年11月に病棟部分、平成18年9月に外来棟と診療棟が完成し、引き続き駐車場などの整備が進められていました。西南但馬医療圏の包括的な中核病院として、診療データをコンピュータで管理する「電子カルテシステム」や最新型のCT装置など最新医療機器を導入したほか、420の病床

と19の診療科が設置されています。新病院の構造は鉄骨免震構造で、地上11階建て延べ面積約3万平方メートル。総事業費は約123億4000万円となっています。総事業費約100人が出席した竣工式典では、同病院組合の梅谷馨・管理者が「近代的医療施設を駆使し、患者サービスの向上を図り、信頼される病院経営に努めなければならない」と述べた後、玄関前で関係者がテープカットして完成を祝いました。

また、兵庫県の寄付を基に鳥取大学医学部が医療研究を行う「地域医療学講座」の研究拠点「地域医療研究所」が同病院2階に設置され、鳥取大学から呼吸器内科の医師が派遣されます。同大学の井上貴央・医学部長は「肺疾患患者が多いといわれる但馬地域で、医師不足への対応と地域医療学の発展のために、八鹿病院との緊密な連携のもとに取り組んでいきたい」と話しました。



研究所の看板を掲げる鳥取大学の井上医学部長（中央）ら